

# コモンズ



中世ヨーロッパには修道院のような居住共同体があり、そこでは生活時間、仕事、住居、食料、衣服が共有されていました。修道院には、製粉所、製パン所、醸造所といった独自の供給システムがあり、自分たちの家畜の毛から衣服や靴を作る仕立て屋や織物職人もいました。住民はさまざまな職業に就き、ほとんどすべてのものが修道院や村で生産されていました。

**2040年、その人物が生きていくために必要なものはすべて彼らの町で生産されていますが、そのすべてを他の人と共有しなければならないと想像してみてください。その人物はもはやどこかで買う必要はなく、他の人々と交換し、分かち合うことになるのでしょうか？**

---

出典: Annette Kehnel - Wir konnten auch anders, page 51-59

# 15分都市

現在、ほとんどの都市は、すべて車で移動できるように設定されています。しかし、2040年には「15分都市」というアイデアが普及するかもしれません。それはつまり職場、学校、医者、買い物といった重要な場所すべてに徒歩か自転車で15分以内に行けるようになるということです。



もしそのような街にその人物が住むとしたら、彼らの近くにある重要な場所はどのようなものですか？15分都市での日常生活はどのようなものになるのでしょうか？

---

<https://www.stadtmarketing.eu/die-15-minuten-stadt/#:-:text=Core%20of%20this%20concept%20is%2C%20that,as%20a%20quarter%20hour%20to%20Fu%C3%9F.>

# 都市におけるコミュニティ・ガーデン



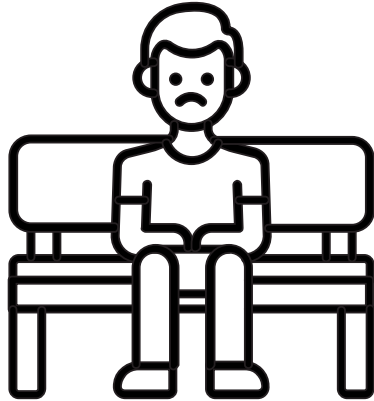
2040年、ますます多くの人々が都市に住むようになりますが、人々は自然を欲しており、そのため都市でのガーデン・プロジェクトに参加しています。このような近隣のコミュニティ・ガーデンでは、都市の住民が消費する果物や野菜を栽培しています。都市のコミュニティ・ガーデンは、高層ビルの屋上や古い公園などにあります。

**その人物がコミュニティ・ガーデンで過ごした一日を描写してください。どのようにして野菜や果物を栽培するのでしょうか？誰にそれらを渡すのでしょうか？どのように料理するのでしょうか？**

---

<https://www.zukunftsinstitut.de/artikel/wohnen/die-zukunft-ist-ein-garten/>

# 孤独



日本では、高齢化社会が着実に進行している一方で、出生数は減少しています。孤独は高齢化社会の大きな問題です。一人暮らしが多く、気の合う仲間とつながる機会もありません。そのため、多くの高齢者は悲しみに暮れ、コミュニティから排除されていると感じています。

**2040年にその人物は高齢者の孤独をどのようにサポートできるでしょうか？ 高齢者同士が交流できる施設はありますか？**

---

<https://sumikai.com/nachrichten-aus-japan/seniorinnen-nutzen-in-japan-gefaengnisse-immer-mehr-als-letzten-zufluchtsort-264531/>

# α世代



α世代は2010年から2025年の間に生まれた人々です。2040年、この世代の最年長は30歳、最年少は15歳になります。彼らは、人工知能や多くのモノがインターネットにつながる「モノのインターネット」が日常生活の一部となっている世界で育ってきました。彼らの両親は教育を非常に重視しているため、彼らは学習意欲が旺盛です。また環境への意識も高く、環境保護にも力を入れています。1997年から2010年に生まれた前の世代はZ世代と呼ばれ、テクノロジーやソーシャルメディアの影響を受けています。

**2040年にはどの世代が成長しているのでしょうか？その世代は何と呼ばれ、どのようなことがその世代を形成しているのでしょうか？彼らにとって重要なことは何でしょうか？その人物の世代の特徴はどのようなものですか？**

---

[https://de.wikipedia.org/wiki/Generation\\_Alpha](https://de.wikipedia.org/wiki/Generation_Alpha)

<https://simon-schnetzer.com/generation-alpha-trends/>

# 未来のエキスパート アルスエレクトロニ カ・フューチャーラボ

ここ数十年、世界的な大企業が地球のためにとった行動は、ますます失敗に終わっています。大人たちだけでは、進展する21世紀のために賢明な決断を下せないことが明らかになってきました。そこで2040年、世界の指導者たちは子どもたちに選挙権を与え、地球の未来のためにどのような決定がなされるのかについて、子どもたちが発言できるようにすることを決定します。

**未来の地球のために、子どもたちはどのように意思決定に関わっているでしょうか？子どもたちの決定は、日常生活においてどのような影響を与えるのでしょうか？**

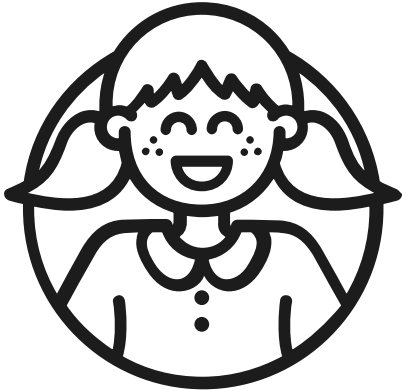
---

<https://ars.electronicart.com/newdigitaldeal/en/the-experts-of-the-future>

Photo: Birgit Cakir



# 幸せな人生



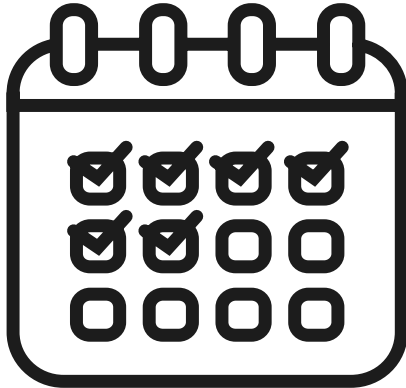
科学者たちは80年もの間、多くの成人の人生を調査し、何が彼らを幸せにするかを探ってきました。若い大人たちの答えは、しばしば「お金」「成功」「名声」でした。年齢を重ねるにつれて、どのような社会環境にいるか、社会からどう見られているか、健康であるかどうか、良好な人間関係を築けているかどうかといったことが重要になっています。良い人間関係、それはパートナー、友人、家族、同僚、あるいは偶然出会った人との関係が、私たちがより健康で幸せにすることもわかりました。

**2040年、その人物にとって良好な人間関係は最優先事項ですか？その人物はリアルとインターネット、どちらに友達が多いですか？年下や年上の人との関係はどうでしょうか？**

---

<https://www.derstandard.at/story/2000142991328/jahrzehntelange-studie-enthueellt-was-uns-wirklich-gluecklich-macht?ref=article>

# 20時間という新しいフルタイム



2040年には、従業員がリラックスしたり好きなことをしたりする、自由な時間を十分に持つことが重要だと理解する企業がますます増えるでしょう。そのため、十分な収入を得るために週20時間しか働かないことが当たり前になるでしょう。自由な時間が増えても、家計を心配する必要がないほど十分な収入を得ることができるようになります

**その人物は仕事についてどのように感じていますか。ストレスは多いのか、少ないのか？余暇を何に使っていますか？**

<https://www.derstandard.at/story/2000143813133/was-waere-wenn-30-stunden-das-neue-vollzeit-waeren>



# 風変わりな職業



私たちが今日可笑しいと思っているような新しい職業が将来生まれるでしょう。ノスタルジストは、好きな時代のスタイルで部屋を飾る手助けや、顧客が過去の楽しい思い出を思い出す手助けをします。廃棄物デザイナーは、廃棄物をよりよく整理し、再利用する方法を考えます。彼らは有用なものが捨てられるのを防ぎたいので、新しい技術も探します。デジタル・デス・マネージャーは、亡くなった人のオンライン・アカウントを管理します。死者のアカウントを管理し、閉鎖し、データやパスワードを削除します。

**2040年にはどんな風変わりな職業がまだ存在しているでしょうか？その人物は次にどんな風変わりな職業に就きたいと考えていて、彼らは何をしなければならないのでしょうか？**

---

<https://www.futurezone.de/digital-life/article213129177/jobs-die-heute-selt-sam-klingen-morgen-aber-schon-real-sein-koennten.html>

# 未来の新聞



2040年、人々は今とは違った方法で新聞を読むでしょう。新聞はもはや紙ではなく、オンラインでしか読めなくなるかもしれません。人工知能が読者のために特別なニュースを作成し、読者の関心や態度をチェックし、読者の言語に翻訳するでしょう。未来の新聞には画像や動画がさらに増え、インタラクションもできるようになるでしょう。もしかしたら未来の新聞では、バーチャルな世界に没入することさえできるようになり、そこで人々はさらに具体的な形で記事に触れることができるようになるかもしれません。

**その人物は将来どのようにニュースを知るでしょうか？誰がニュースを提供するのでしょうか？未来の新聞には、他にどんな発展が待っていると思いますか？**

---

<https://www.wienerzeitung.at/nachrichten/kultur/medien/2174656-Die-Zukunft-des-Journalismus.html>

# 未来の知性



多くの大人は、将来、機械やコンピューターに頼りすぎて、頭が悪くなるのではないかと心配しています。しかし、それは必ずしも真実ではありません！人工知能は実際に、私たちが難しい問題を解決したり、大量のデータを処理したりするのを助けてくれています。

私たちが賢さを保てるかどうかは、環境や食生活、教育など多くのことに左右されます。脳を鍛え続ける限り、テクノロジーのせいで頭が悪くなることはないのです。

その人物はテクノロジーを使ってどのように知識を増やしていますか？  
テクノロジーはどのように役立ち、どのような厄介な問題を解決できるのでしょうか？



# COBOT STUDIO

ロボット・スタジオ

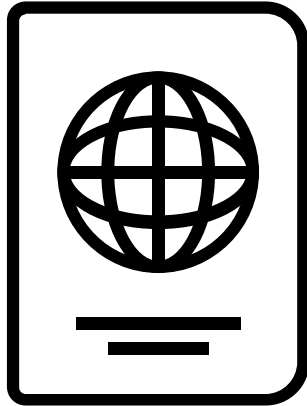
職場における人間とロボットのコラボレーションは、2040年に大きな役割を果たすでしょう。ロボットは人間とより安全かつ効率的に作業できるよう、特別に訓練されるでしょう。”CoBot Studio”と呼ばれる研究プロジェクトは、人間とロボットがよりよく理解し、協力し合うための動きや信号の使い方を示しています。将来、ロボットは人間のように動き、行動するように設計されるでしょう。そうなれば共同作業が容易になり、仕事をより速く、より良くこなせるようになるでしょう。その結果、人々はロボットと一緒に働くことをもっと受け入れるようになるでしょう。

**2040年、私たち人間はどのような仕事でロボットのサポートを受けることになるのでしょうか？その人物は、日常生活でロボット・ヘルパーに向き合うことになるのでしょうか？**

<https://ars.electronica.art/futurelab/en/projects-cobot/>

Photo: Ars Electronica / Martin Hieslmair

# 未来の国家

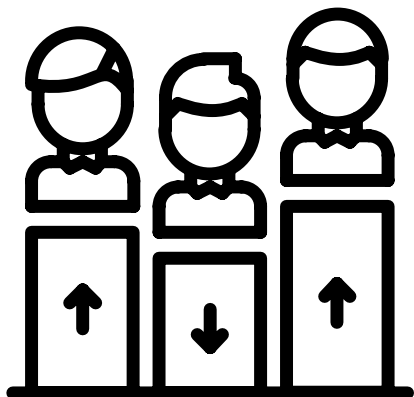


気候変動や資源不足の問題を解決するために、これからは各国がもっと支え合う必要があります。しかし残念ながら、いまだに他の国から人々を助けることを難しくする国境が存在しています。2040年には、人々が追加で取得する新しい種類の国際市民権が存在するかもしれません。これがあれば、どこにでも行って、働き、暮らすことができます。現在でも、難しい事務手続きや大企業の力といった障害があります。もうひとつの課題は、国同士の協力と自国の文化や伝統の保持をうまく組み合わせることです。

**2040年になっても、その人物がどこの国の出身であるかは重要でしょうか？もしその人物が自分の住んでいる場所を離れ、別の場所に住まなければならないになったら、どのように迎えてほしいですか？どのようなルールが適用されるのでしょうか？**

<https://www.bbc.com/future/article/20221117-how-borders-might-change-to-cope-with-climate-migration>

## 多様な考え方の台頭



世界には非常に力のある国がたくさんあります。例えばヨーロッパではドイツやフランスがそうです。アメリカも世界の経済や政治に重要な影響力を持っていますし、アジアでは日本や中国が強力です。さらに、ロシアは世界の問題に大きな影響力を持っています。2040年にはインドも重要な役割を果たす可能性があります。2040年、誰が世界を支配するかについては、さまざまなことが寄与するでしょう。例えば、その国の政治がどれだけ安定しているか、経済がどれだけ成長しているか、イノベーションがどれだけあるかなどです。

**2040年に重要な役割を果たす国は沢山あると思いますか、それとも1つだけだと思いますか？その人物が住んでいる国の人々はうまくやっていますか？国民は何を基準に生活していますか？**

# 男女間の賃金格差



日本では依然として男性の方が女性よりも収入が多いです。身近な理由としては、育児や家事の分担が不平等で、賃金が支払われないなどあります。仕事の選択も収入に影響します。女性が同じ仕事をしていても賃金が低いことがあります。これを性差別といいますが、これを変えるには、あらゆる職業、特に技術職での女性の力を高める必要があります。女性がフルタイムの仕事に就くことを妨げる障害をなくし、女性が重要な指導的地位に就くことを支援しなければなりません。また、男女間の賃金格差を是正するために、それぞれの人の収入をよりよく理解することも重要です。

**2040年の所得はどうなっているでしょうか？また、差があるとすれば、それはどこにあり、なぜなのでしょう？**

<https://data.oecd.org/earnwage/gender-wage-gap.htm> <https://www.statista.com/statistics/1311461/japan-gender-pay-gap-by-income-range/#:~:text=In%2021%2C%20the%20gender%20pay,gap%20during%20%20during%20%20easured%20period.>

# 世界的な富の分配



世界では、お金と財産は非常に不公平に分配されています。現在、世界人口の1%の富裕層が世界の富の約43%を所有しています。つまり、大金持ちで巨万の富を持つ少数の人々がいる一方で、お金や財産をほとんど、あるいはまったく持っていない人々が大勢いるということです。世界の富の分配は、多くの原因が複雑に絡み合っています。公平な経済システムの構築、教育や機会均等の促進、富をより平等に分配するための政治的措置など、不平等を是正するためのさまざまなアプローチがあります。

**その人物はどのような生活を送っていますか？彼らは富裕層に属するのでしょうか、それとも貧困層に属するのでしょうか？彼らの生活状況はどの程度公平だと思いますか？**

---

<https://de.wikipedia.org/wiki/Verm%C3%B6gensverteilung>



# 社会的信用システム



社会的信用システムとは、社会における人々の行動を判断するシステムです。このシステムは、経済的責任、交通違反、仕事ぶり、社会的行動など、日常生活のさまざまな側面をランク付けすることができます。これらの点数は、その人の社会的地位を定義するために使われ、点数が高ければ高いほど、たとえば子供の教育、安定した仕事、銀行からの融資、高齢になったときの支援などを受けられる可能性が高くなります。このような制度が個人の自由の制限につながったり、人を不当に扱い黙らせる「格付け制度」になったりすることを危惧する人もいます。また、社会的責任ある行動を促進し、社会を改善するなどの利点があるとも考える人もいます。

**2040年には、そのようなシステムが存在しているかもしれません。これについてどう思いますか？このシステムは私たちの社会にとって良いものだと思いますか？その人物の生活にどのような影響を与えますか？**

# みんなのための無料のお金

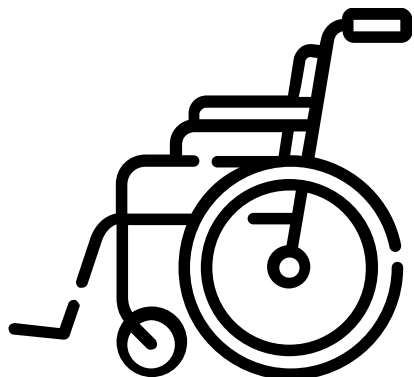


2040年には、家賃、電気代、暖房費、食費を賄えるだけのお金が国から無料で支給されるようになるかもしれません。貧困と戦い、人々は自分のスキルに合った仕事をします。このようなベーシック・インカムは、大病や自然災害などの危機が発生したときに役立ちます。しかし、もし私たちがタダでお金を手に入れたら、人々は重労働をする気がなくなってしまうかもしれません。そうなれば、ベーシック・インカムが保障されていない、どこから来た人たちがこの仕事をしなければならなくなります。雇用主も、すでに国からお金をもらっているのだから、従業員への支払いを減らすことができます。

**ただでお金をもらえたとしたら、それはいい考えだと思いますか？そんなことがうまくいくでしょうか？そのようなベーシック・インカムがあれば、その人物はどのように生活しますか？**

[https://en.wikipedia.org/wiki/Universal\\_basic\\_income\\_in\\_Japan](https://en.wikipedia.org/wiki/Universal_basic_income_in_Japan)

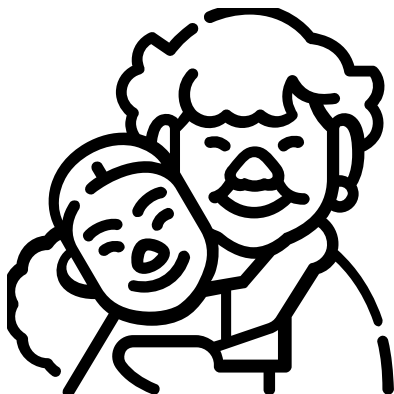
# 高齢化社会



長寿と少子化により、日本の人口は高齢化しています。その結果、将来は若い人よりも高齢者の方が多くなります。そのため、多くの社会にとって医療や介護の必要性の高まりが課題となります。退職金制度や労働市場も高齢化社会に適応しなければなりません。

**その人物の知っている高齢者はどのような人たちですか？高齢者は日本では生活にどのように関わっていますか？**

# 現在と未来の認識に関する高齡化



年齢を重ねるにつれて分かってくる重要なことのひとつは、時間には限りがあるということです。つまり、本当に大切なことに集中すべきだということです。時間がたっぷりあると思うと、将来の計画を立てます。時間があっという間に過ぎていくことに気づけば、今をもっと楽しむようになります。年齢を重ねるにつれて、時間は貴重なものであり、それを使うべきだと気づくのです。

**その人物は年をとることについてどう感じていますか？今を生活しているのか、それとも先の計画を立てるのが好きなのか。今と将来の彼らの計画はどのようなものでしょうか？**

---

"The Good Life": Harvard study on 80 years old, 2023.



# 分身ロボットカフェ DAWN VER. B : 未来 のカフェ

吉藤オリィ(JP)

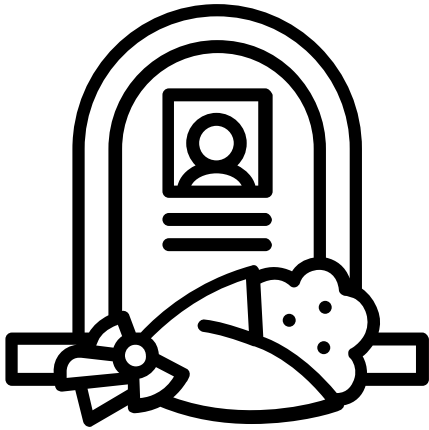
2018年、都内で初めてロボットが接客しコーヒーを提供する実験的なカフェがオープンしました。ロボットの後ろには、移動に制限のある人や障害のある人が存在し、画面を通じてロボットを操作することで、労働市場に参加することができます。

今後、カフェやレストランではどのようなサービスが提供されるのでしょうか。その人物はそこでどのようなサービスに出会うのでしょうか？  
今後、身体障害者は日常生活にどのように溶け込んでいくのでしょうか？

<https://ars.electronica.art/newdigitaldeal/en/avatar-robot-cafe>

Photo: Courtesy of the Artists

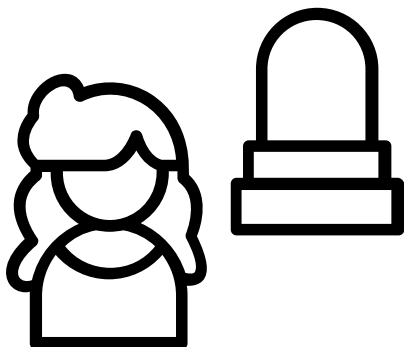
# 未来の死への対応



将来、高齢で亡くなる人が増えるでしょう。新しい技術や薬によって、寿命が延びたり、苦痛が和らいだりします。病院や医療施設ではなく、自宅で死を迎えたい人も多くいます。そのため、自宅を含め、死期が迫った人へのケアやサポートの選択肢が広がっています。2040年には、バーチャルであったり、チャットボットを使って悲嘆に暮れる人々をサポートする新しいタイプの葬儀や弔いの儀式が登場します。しかし、新しいテクノロジーにもかかわらず、悲嘆に暮れる人々をケアすることが重要であることに変わりはありません。

**身近な人が亡くなったと想像してみてください。その葬儀はどのようなものでしょうか？その人物はその人の死をどのように扱うでしょうか？**

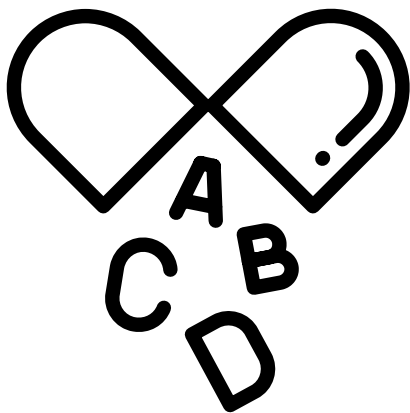
# デジタルな不死



2040年、愛する人の死に対処するためのテクノロジーが登場します。人工知能と仮想世界の助けを借りて、死後も利用可能なデジタル版の人間を作ることができるのです。これは、テキストメッセージやソーシャルメディア上の投稿を分析し、死者がどのように話したかを学習するチャットロボットです。弔問客はこれらのロボットに話しかけることで、愛する故人と話しているような感覚を味わうことができます。2040年までには、本人と同じように動き、話すバーチャルアバターを作ることができるようになるかもしれません。死後、バーチャルな世界でその人を訪ねることもできるでしょう。

**その人物はデジタルで不死になることを想像できますか？自分の死後、愛する人とデジタルでコミュニケーションできることについて、その人物はどう思いますか？**

# デジタル医療



今日、多くの人々が自分の健康について調べたり、他の患者とコミュニケーションをとったり、医師とアポイントを取ったり、服薬のリマインダーを受け取ったりするためにテクノロジーを利用しています。2040年までには、病気や症状の治療に役立つデジタル療法がさらに増えるでしょう。製薬会社は適応し、成功するための新しい方法を見つけなければならなくなるでしょう。医師と科学者は協力してデジタル療法を開発し、保険会社は特に効果的なデジタル療法の費用をカバーするように変わっていくでしょう。

**デジタル医療とはどのようなもので、どのように役立つのでしょうか？**

---

<https://www.frog.co/designmind/healthcare-in-the-metaverse>



# バーチャル解剖学



2040年までには、医師や医療専門家がデジタル・プラットフォームを使って新しい方法で人体を探索することが一般的になるでしょう。巨大な高解像度スクリーン上で身体の部位を拡大したり、皮膚や骨、臓器のさまざまな層をバーチャルに移動したりできるようになります。2040年までには、この技術を使って、患者の難しい怪我や病気の画像を実物より大きく見ることができるようになり、より良い手術や治療が可能になるでしょう。これらは病気の新しい解決策につながる可能性もあります。

**その人物はこうした技術をどのように使っていますか？また、これらは人々にどのように役立っていますか？**

---

<https://ars.electronica.art/futurelab/en/projects-virtual-anatomy>

Photo: Magdalena Leitner



# K9-TOPOLOGIE

## K-9 トポロジー

Maja Smrekar (SI) マヤ・スムレッカー(SI)

マヤ・スムレッカーのアート・プロジェクト「K-9トポロジー」は、人間と動物、特に犬がどのようにつながっているかを探求しています。彼女は犬のDNAと自分のDNAをミックスし、新しい生物を作ろうとしています。そうすることで、彼女は、科学が自然に対して責任を持つためにはどうすればいいのか、テクノロジーが私たちと動物との関係にどのような影響を与えるのかを知りたいと考えています。

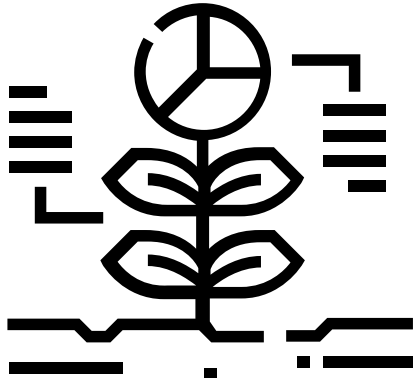
**その人物はどんな動物が好きですか？2040年には、遺伝子組み換えによって新種の動物が誕生するのでしょうか？その動物たちは、まだ存在しない新しい能力を持つようになるのでしょうか？**

---

[https://ars.electronica.art/aeblog/en/2018/03/05/k-9\\_topology](https://ars.electronica.art/aeblog/en/2018/03/05/k-9_topology)

Photo: Borut Peterlin

# 培養肉と野菜



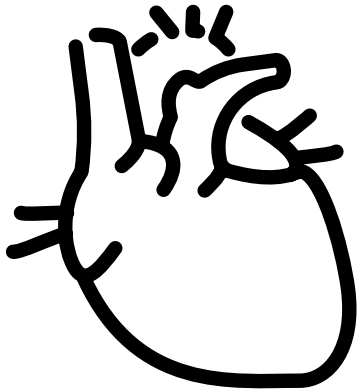
動物を繁殖させたり殺したりすることなく、実験室で生産される新しい種類の肉があります。それは「培養肉」と呼ばれています。多くの空間、水、食料、薬を必要とするような沢山の動物を飼う必要がないため、環境にもよく、効率的です。また、動物を傷つけることもありません。現在、培養肉は一部の国でしか買うことができません。2023年以降、日本の厚生省でも国内でも許可すべきかどうか議論されており、2040年までにはすでに多くの人が食べているかもしれません。

**その人物は、肉を食べることについてどう考えていますか？肉を食べることの何が重要なのでしょう？その肉が本物の動物のものであるかどうかには違いはあるのでしょうか？**

---

<https://www.nationalgeographic.de/wissenschaft/2021/10/fleisch-aus-dem-labor-ist-das-unsere-zukunft>

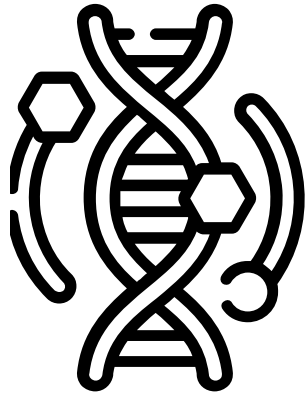
# 人工臓器



人工的に臓器を作り出す新技術があります。血管、皮膚、軟骨など、いくつかの臓器はすでに実験室で製造に成功し、医療に使われています。残念ながら、心臓、肺、肝臓のような複雑な臓器を作るのはまだ非常に難しく、さらなる研究開発が必要です。人工臓器製造は、2040年には臓器提供の代替となり、すべての人のために十分な臓器を確保するのに役立つ可能性があります。

その人物やその人の大切な人はどのような人工臓器を持っていますか？  
なぜ人工臓器が必要なのでしょう？その人たちにとって、人工臓器によるより良い生活とはどのようなものなのでしょうか？

# CRISPR-CAS9



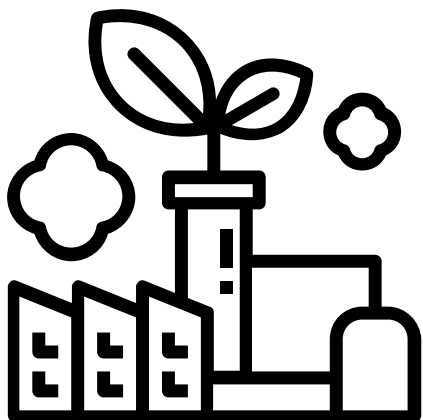
今日、ヒトの遺伝子組み換えを認めるかどうかについて、多くの議論が行われています。賀建奎は、CRISPRと呼ばれるゲノム編集技術で実験を行った中国の科学者です。CRISPRは、特定の遺伝子を特異的に改変したり置き換えたりすることで、生物の遺伝物質を改変することを可能にします。賀建奎は2018年、ヒト胚の遺伝子編集を行ったと発表し、国際的な話題となりました。彼は双子の遺伝子を改変し、HIV感染に耐性を持たせたと主張しました。日本ではすでに、特定の家畜に対するゲノム編集が認められています。しかし、人への遺伝子操作はまだ疑問視されており、許可されてはいません。

**その人物はこのことについてどう思いますか？2040年には人間の遺伝子を変えることは許されているのでしょうか？**

---

<https://www.transgen.de/tiere/670.gentechnik-tieren-stand.html#:~:text=Now%20it%20is%20m%C3%B6glich%2C%20determined,More%20will%20soon%20follow.>

# クライメート・ニュートラル・ジャパン？



2050年までに、日本はクライメート・ニュートラル（気候中立）になるべきでしょう。これは、大気中に放出される温室効果ガスが、再び取り込まれる温室効果ガスよりも少ないことを意味します。しかし、もし私たちが交通で多くの排気ガスを出し続け、将来、異常気象のために枯死する森林が増え続ければ、私たちは目標を達成できないでしょう。しかし、資源を大切にすれば、目標を達成することはできるのです。

**その人物は、日常生活でどのように環境に配慮した生活をしていますか？どのようにエネルギーを節約していますか？まだ改善できる点はありますか？**



# LIFE SUPPORT SYSTEM

ライフ・サポート・システム  
DISNOVATION.ORG (FR/PL/CA)  
ディスノベーション・ドット・オルグ(FR/PL/CA)

2040年には気候変動によって、現在日本で生産されている穀物、野菜、果物などの食料が栽培できなくなると想像してみましょう。米などの穀物を栽培したければ、別の品種を探さなければならないかもしれません。また、水やり、光、熱、風などの人工的な手段を使って屋内で栽培を試みるかもしれませんが、結局は非常に高価で、エネルギーを消費することになるでしょう。

**気温の上昇や下降によって他の食べ物を作らなければならなくなった時、その人物は日本で何を食べるのでしょうか？**

---

<https://ars.electronica.art/center/en/life-support-system>

Photo: DISNOVATION.ORG



# ASUNDER アサンダー

Tega Brain (AU), Julian Oliver (NZ), and Bengt Sjölén (SE)

テガ・ブレイン (A U) 、ジュリアン・オリヴァー (N Z) 、ベングト・ショーレン (S E)

2040年、環境問題を解決するための「環境マネージャー」が誕生します。この環境マネージャーは人間ではなく、人工知能 (AI) 、つまりデータを処理しデータから学ぶことができるデジタル・システムです。この場合、AIは気候について学習するため、将来起こりうる変化を予測し、改善のための提案をすることができます。

**この環境マネージャーが日本の気候変動に対処する手助けをすると想像してみましょう。2040年、日本の気候はどのように変化するのでしょうか？環境管理を機械に委ねた場合、どのような影響があり、どんなうまくいかない可能性があるのでしょうか。このような変化を実現するために、AIはどのような解決策を提示するのでしょうか？**

---

<https://ars.electonica.art/center/en/asunder/>

Photo: Courtesy of the Artists





# METROPA メトロローパ

Stefan Frankenger (AT) et al.

シュテファン・フランケンベルガー (AT) ほか

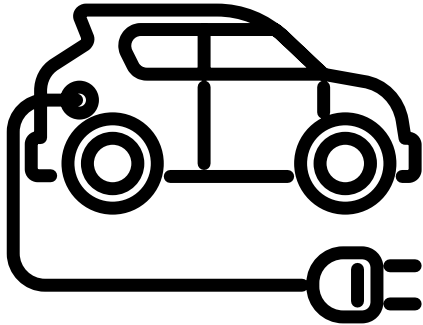
今日すでにヨーロッパでは、日常的なビジネスだけでなく、休暇を過ごす際にも列車を利用する人が増えています。それはCO2削減と気候保護のためです。2040年には、鉄道が大陸全体を網羅し、すべての都市を結ぶようになります。駅から駅への移動は、地下列車と同じくらい簡単になるでしょう。例えば、「メトロローパ」プロジェクトは、ヨーロッパで多くの夜行列車が運行され、料金も安くなることを示しています。より多くの人プライベートだけでなく、ビジネスでも電車を利用するようになるのです。

アジアにもこのようなものがあり、その人物がインドネシアに旅行するのに飛行機を避け、代わりに地下鉄5号線に乗ると想像してみましょう。その人物は列車の旅で、そして休暇で何を体験するのでしょうか？

[www.metro.eu](http://www.metro.eu)

Photo: metropa

# 未来のモビリティ



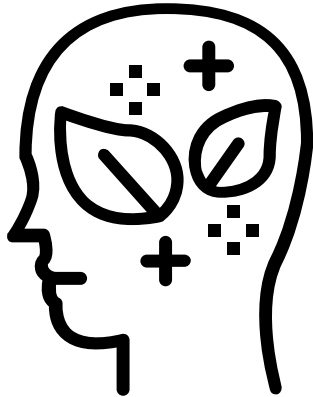
2022年、世界で新規登録された自動車のほぼ90%は、まだガソリンエンジンかディーゼルエンジンを搭載していました。しかし2030年以降、日本ではそのようなエンジンを搭載した新車は登録されなくなると予想されています。その代わりに、電気自動車やハイブリッド車など、より環境に優しい駆動システムに切り替えていきたいとしています。つまり、将来的に自動車から排出される排気ガスや騒音は減るけれど、電力消費量は増えることになるのです。そしてさらに、より多くの車が自動運転になるでしょう。

**その人物は車を持っていますか？その人物は普段どのような車に乗っているのでしょうか？2040年の日本では、乗り物用の電気はどのように作られているのでしょうか？**

<https://ars.electronica.art/futurelab/en/projects-reimagining-the-mobility-of-the-future/>

<https://www.handelsblatt.com/politik/international/verkehrspolitik-japan-will-neue-benziner-ab-2030-verbieten/26682544.html>

# 人当たりの気候予算



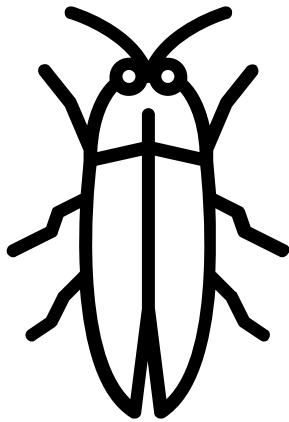
2040年には、気候を保護するために、一人一人が一定の気候予算を受け取るようになります。それはつまり、誰もが一定量のCO2しか排出できないということです。これまで私たちは、私たちのライフスタイルのために大気中にCO2を排出しすぎてきました。一部の富裕層は、自家用飛行機や高価なヨットなど、CO2を大量に排出するものにお金を使いすぎています。ですから、私たち全員が環境を大切にすることを学び、気候を守るために気候予算を守るべきなのです。

**2040年の気候予算とはどのようなもののでしょうか？その人物は気候予算を何に使っていますか？誰と、どのように、自分の気候予算を他の人と分かち合うことができるのでしょうか？**

---

<https://www.derstandard.at/story/2000143549395/mit-dem-pro-kopf-klimakonto-die-welt-retten>

# 新たに見られるようになった種と外来種



気候変動と温暖化により、動物、菌類、植物は新しい住処を見つけつつあります。例えば、カマキリは温暖なアジアにも多く生息するようになりました。病気を媒介する蚊はアジアからヨーロッパに広がっています。もともとその地域に生息していたわけではなく、交易や園芸産業などの人間の活動によってもたらされた植物種は、Neophyte（ネオファイト）と呼ばれています。このような植物は、成長を制限する天敵がないことが多いため、新しい環境でもよく広がることができます。そのため、急速に蔓延し、在来の植物に取って代わるという問題が生じることもあります。

**2040年、新しく持ち込まれた動物や植物は、その人物の身の回りにどのような課題や危険をもたらすでしょうか？どのようにしてその人物はこうした生物から身を守るでしょうか？**

# デジタル・ツイン



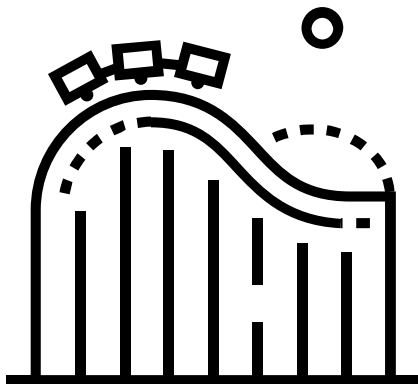
デジタル・ツインとは、現実の物体のバーチャルなコピーです。データを与えると、テストしたり問題を解決し、改善方法を発見することができます。例えば、建物、自動車、電力システム、さらには都市全体のデジタル・ツインがあります。

**2040年には東京のデジタル・ツインがあると仮定した時に、現実の都市で何の改善をするためにバーチャルな都市でまず何を試すでしょうか？**

---

<https://www.ibm.com/de-de/topics/what-is-a-digital-twin>

# バーチャル縁日



中世以来、人々は定期的にかれる縁日に出かけてきました。この伝統は今日に至るまで世界中の多くの都市で続いており、祝われ方はどこも異なっています。とはいえこうした縁日にはジェットコースターやメリーゴーランドなど多くのアトラクションがあり、おいしい食べ物や飲み物が提供されることが多いものです。かつては年に1、2回しかなかった縁日も、2040年には特殊なVRメガネをかけることで、仮想現実に入し、毎日ジェットコースターを体験できるようになるかもしれません。

**もし2040年にも縁日が存在すると想像したら、そこであなたは何を体験すると思いますか？**

# サイバー犯罪



2040年、アートxテクノロジーx社会を考えるミュージアムであるアルス・エレクトロニカ・センターに、ある特殊犯罪を解決するため、有名な探偵団が呼ばれました。来館者が自宅のコンピューターからアクセスできるデジタル版の会場では、技術者のふりをしたスパイ・ハッカーによって、チームのメンバーが「ニックナップ」された。ハッカーは人工知能を使って従業員をスパイし、機密データと彼のデジタルマネーを盗んだのです。他の従業員も同様の攻撃を受ける危険性があります。

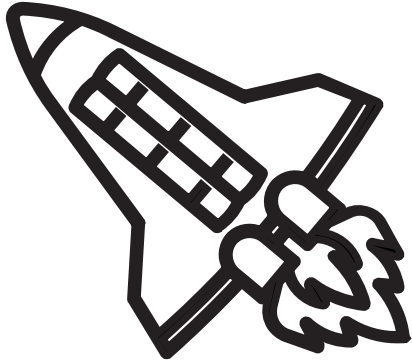
たまたまオンライン・ギャラリーの訪問者だったその人物は、事件解決に協力しなければなりません。2040年、警察はおそらく高度なテクノロジーを駆使して犯罪を解決していることでしょう。

**犯罪を解決するためのテクノロジーとはどのようなものでしょうか？ハッカーに対する処罰はどのようなものでしょう？2040年の刑務所はどのようなものですか？**

---

<https://www.axa.ch/de/privatkunden/blog/zuhause/recht-und-justiz/glossar-cybercrime.html>

# 宇宙旅行



近年、宇宙を探検する人が増えています。火星や月は特に興味深い場所です。民間企業も政府も宇宙へのミッションを可能にしています。現在、月ではすでに鉱物が採掘されているのです。いつか火星に住めるようになるかもしれない、あるいは火星に移住しなければならなくなるかもしれないと考える人もいます。

**その人物は宇宙に飛ぶことは可能でしょうか？2040年、彼らはそこで何を体験できるでしょうか？**





# SLAP – SEE LIKE A PONY

SLAP – ポニーのように見る  
Sabine Engelhardt (DE) ザビーネ・エンゲルハルト (DE)

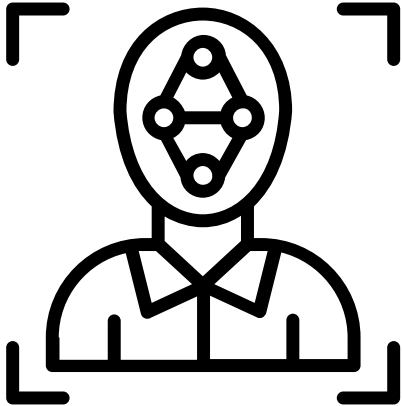
科学者たちは、将来、車が自分で運転できるようになることを望んでいます。このプロジェクトである科学者は、人間が自動運転車とどのようにコミュニケーションすればよいかを理解するために、ポニーがどのように環境を見ているかを調べています。ポニーの場合、耳の位置から、彼らがどのように感じているか、我々を感じ取っているかを理解することができます。ポニーと同じように、将来的にはボディランゲージを通して車と会話することもできるでしょう。目標は、車が私たちを見ていること、私たちに注意を払っていることを示せるようになることです。

**2040年、その人物はどのように移動しているでしょうか？また、どのように車と会話するでしょうか？**

<https://starts-prize.aec.at/en/slap-see-like-a-pony/>

Photo: Marcus Werner

# 顔認証



顔認証とは、人を顔で認識しようとする技術です。これは顔の画像や動画を撮影し、特別なプログラムで処理し、分析することによって行われます。この技術は空港や大きなイベントなどで、その人が本当に本人かどうかを確認するために使われることもあります。しかし、プライバシーの問題や、この技術が悪用されて知らないうちに監視される可能性も懸念されています。

**その人物はどこで顔認証で記録され、その記録は何に使われるでしょうか？**

# 監視 (WHAT A GHOST DREAMS OF)

AIはどんな夢を見る

か

h.o. (エイチ・ドット・オー)



作品「What a Ghost Dreams Of」には、カメラ付きの大きな監視の目があります。この目は来館者の顔をとらえ、それらをデジタル画像に貼り付けます。これによって現実世界には存在しない人々の新しい顔が作り出されます。

**その人物は、どこで人工的な顔、人々、そして存在と出会うのでしょうか？**

---

<https://ars.electronica.art/center/en/what-a-ghost-dreams-of/>

Photo: Ars Electronica / Martin Hieslmair



# AMSTERDAM'S 3D PRINTED STEEL BRIDGE

アムステルダムズ・スリーディー・プリンテッド・  
スチール・ブリッジ

MX3D & Joris Laarman Lab MX3D&ヨリス・ラールマン・ラボ

アムステルダムにある非常に特別な橋が、新しいテクノロジーを使って建設されました。多くの個別の部品から橋を作る代わりに、巨大な3Dプリンターを使って鋼鉄から橋が作られたのです。特に特殊であることは、複雑な形状やパターンを作成できることなのです。そしてまた、橋にはリアルタイムでデータを収集する小型センサーが多数設置されています。これらのセンサーは、人々が橋をどのように利用し、安全かどうかを記憶します。これは、将来さらに優れた巨大な橋を作るために重要なことです。

**2040年には、他にも3Dプリンターで作られた建築物があるでしょうか？それはどのようなものでしょうか？内蔵されたセンサーは、建築物からどのような情報を収集するでしょうか？**

<https://starts-prize.aec.at/en/amsterdams-3d-printed-steel-bridge/>

Photo: Olivier de Gruijter



# SCREENDRESS

スクリーン・ドレス

Anouk Wipprecht (NL) アヌーク・ヴィプレヒト

アヌーク・ヴィプレヒトによるScreenDressは、小さなスクリーンの上で目が動く特別なドレスです。この目は、着用者の脳が今どれだけ活性化し、ストレスを感じているかによって動きます。このドレスは、たとえ言葉とは異なる表現であっても、脳の仕事量について自分自身を表現する手助けをします。これは特殊な技術を使用しており、着用者の頭部にあるセンサーが脳の活動を測定し、それに応じてドレスの目が反応します。

**2040年には、気持ちを表すことが苦手な人でも自分の気持ちを表現できるような、どんなテクノロジーが存在しているのでしょうか。その人物は、こうした人々とどのようにコミュニケーションをとっていますか？**

---

<https://www.designboom.com/technology/anouk-wipprecht-screendress-3d-printed-dress-eyes-brain-sensor-09-07-2023/>

Photo: vog.photo



# BIOSMOCKING

バイオスモッキング

Yuima Nakazato ユイマ・ナカザト

"Biosmocking"は、日本のファッションブランドYUIMA NAKAZATOが取り組む、生地を無駄にすることなく立体的な服を作り出すファッションにおける革新的な技術です。Brewed Protein™が持つ超収縮と呼ばれる特徴に対して、デジタルデータを特殊印刷することで形状の変化を制御します。着用する人の好みや身体的特徴など、その人の個性に合わせた衣服をより多くの人に届けようという構想です。

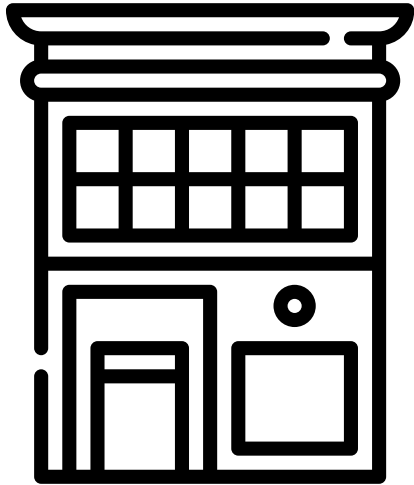
また、美しい服をデザインするだけでなく、素材を無駄にすることなく立体的にフィットする服を作ることができるのもBiosmockingの特徴と言えるでしょう。長方形のまま生地を使い切るBiosmockingは生産時における環境負荷も極限まで減らすよう努力しています。

2040年、あなたやその周りの人は、どのように作られた衣服を着ているでしょうか。それは人に環境にやさしいファッションでしょうか。

<https://ars.electronica.art/aeblog/en/2023/07/27/enter-the-transformation-lounge/>

Photo: Yasunari Kikuma

# 空き家問題



2040年、日本ではまだ空き家問題が残っており、この問題は行政や市民の対策によって、多角的に取り組まれています。リノベーションや取り壊しへの補助金、コミュニティ・リビング、公民館やアートギャラリー、ワークショップ・センターといった空き家の創造的な活用、安い住宅を求めて地方に移住する外国人などについて考えてみましょう。

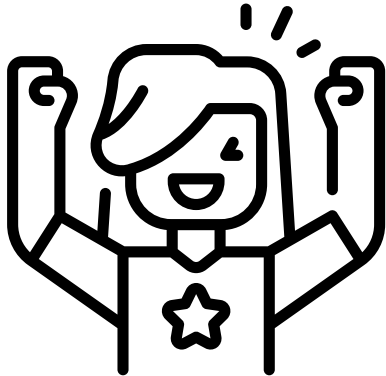
**2040年の滋賀で、その人物は空き家問題のクリエイティブな解決策をどのように使っていますか？**

[https://www.youtube.com/watch?v=6DAw\\_ISEEc](https://www.youtube.com/watch?v=6DAw_ISEEc)

- Tatsukami, Y., Yokoyama, S., & Tokuono, T. (2021). Evaluation of action in local governments for reducing vacant houses and availability of qualitative system. *Japan Architectural Review*, 4(4), 589-607.

- Tamura, S., Kajie, K., & Tanaka, T. (2023). Factors Influencing the Occurrence of Vacant Houses in a Small Provincial Town in Japan. *Applied Spatial Analysis and Policy*, 1-24.

# 若者に向けた地域開発



若者に向けた地域開発のアプローチは、各地域の若者特有のニーズや課題を考慮し、彼らのための機会創出と支援に焦点を当てています。このアプローチは、様々な地域の若者の失業、教育・訓練不足、社会的排除といった問題に取り組むものです。教育、訓練、若者の起業家育成プログラムなど、若者に特化した取り組みに投資することで、経済的・福祉的成果を向上させることを目的としています。若者向けの地域開発を導くため、専門的な調査に基づいて政策が打ち出され、世代間交流やメンタルヘルスといった分野に重点が置かれます。意思決定やプログラム実施に若者を積極的に参加させることで、彼らのニーズが確実に満たされ、開発プロセスにおける当事者意識が育まれます。地方自治体、企業、地域団体などの関係者と協力することで、連携したアプローチがより強化されます。定期的な評価により、若者を対象としたイニシアチブの効果を評価し、地域の若者のニーズに対応するために資源が効率的に使われていることを確かめます。

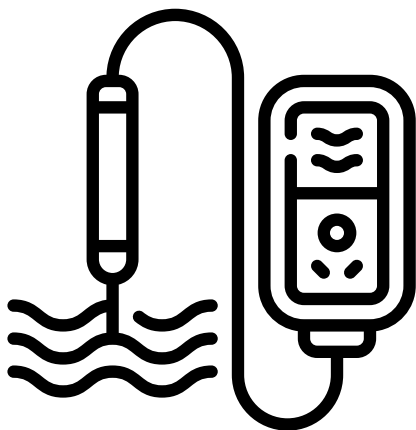
**その人物は、このプランのどの部分を重視しているのでしょうか。また、どのように計画に参加し、より良いものにしていくつもりなのでしょうか？**

<https://austriaca.at/0xc1aa5576%200x003e4966.pdf>

<http://innovationclub.jp/>



# シチズン・サイエンス



シチズン・サイエンスとは、「人々が知的な努力や 周辺知識、あるいは道具や資源を用いて主体的にサイエンスに貢献することで、一般市民が科学的な研究活動に参加すること」をいいます（欧州委員会、2014年）。これは活気ある市民社会への重要な貢献です。2023年に初めて授与されることになった「シチズン・サイエンスのための欧州連合賞」は、このような関心を表明するものです。この賞は、研究、イノベーション、貢献、創造性を私たちの社会に役立て、私たち個人に力を与え、私たちコミュニティを強化するような優れた取り組みを表彰します。

**その人物はシチズン・サイエンスのプロジェクトに参加したことがありますか？どのようなツールを使い、どのような成果を得ましたか？また、どのようなプロジェクトをシチズン・サイエンス賞に応募しましたか？**

---

<https://ars.electonica.art/citizenscience/en/>



# 歴史的遺産 シュテファン大聖堂

オーストリア・ウィーンのシュテファン大聖堂をレーザースキャナーで210億点以上の点として計測し、そのデータを半透明の大聖堂に変換しました。これにより、2020年からアルスエレクトロニカ・センターのディープ・スペース8Kで体験できる、8Kの立体視を用いてインタラクティブで没入感のある革新的な建物を巡るツアーが実現しました。このプログラムでは、リアルタイム・レンダリングによって大聖堂の点群を飛び回り、360°の高解像度画像で特定の地点に止まることができます。

**その人物がデジタルツインにしたい場所や建物はありますか？**

<https://ars.electronica.art/futurelab/en/projects-translucent-stephens-cathedral/>

Photo: Johannes Pöll

# 参加型の未来の都市計画



シウタット・ヴェリャの土地利用計画は、バルセロナの中心市街地をより住みやすくすることを目的としたプロジェクトです。ビッグデータ、KDD（データベースによる問題発見）、市民参加を利用して、公共政策の情報提供、シミュレーション、立案を行っています。このプロジェクトは、都市計画家、弁護士、政治指導者、研究者、市民参加ファシリテーターなど、データ活用による診断と都市計画の専門家チームが主導しています。計画は、機械学習と人工知能に基づく空間分析の斬新な方法論を応用し、経済活動と市民の生活の質の共存を実現しています。テクノロジーの活用は、バルセロナ中心地区の公共施設、食品店、観光サービスを規制する現行のマスタープランを一変させました。この地域には、脆弱な都市環境で生活する人口が密集しており、これらの人々は弱者でもあります。このプロジェクトは、産業、テクノロジー、アートの革新的なコラボレーションが評価され、S+T+ARTS賞を受賞しました。

**その人物はまちづくりや地域の集まりに参加していますか？**

<https://ars.electronica.art/starts-prize/en/ciutat-vellas-land-use-plan/>

# データアート & サイエンス・プロジェクト



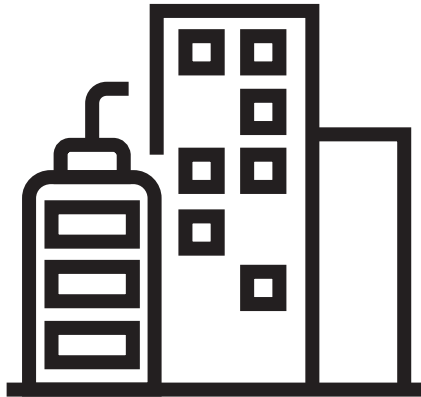
データアート & サイエンス・プロジェクトは、データサイエンスに基づく未来の変革に対する芸術的視点を取り入れた新しい学際的プロジェクトです。データ・アーティストは、批判的な思考をスパイスにしなが、データを没入体験に変えます。データ・サイエンティストは、意味のある相関関係や予測を明らかにする専門知識を提供します。両者はダイナミックなチームとして、注目を集めるだけでなく、データというレンズを通して世界の理解を広げるプロジェクトを創造します。このプロジェクトは、データアート & サイエンスがストーリーを作り、現実を形成する際の変革力を調査します。これらのコラボレーションは、生の情報を魅力的なストーリーに変え、複雑な概念を誰にでも理解できるようにします。この相乗効果により、作品のインパクトが高まり、好奇心が掻き立てられ、情報とその視聴者とのより深いつながりが育まれます。

**その人物は、地域のデータ収集に参加していますか？アートに関心がありますか？どのようなデータを収集することに興味がありますか？**

<https://ars.electronica.art/futurelab/en/projects-data-art-science-project/>

Photo: Peter Holzkorn

# メガシティ



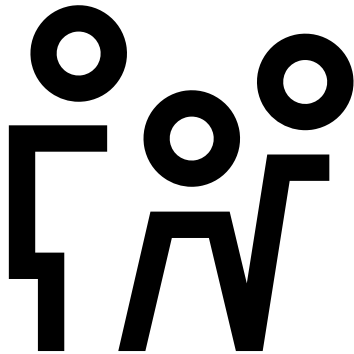
都市に住む人の数は成長し続け、今後もそれは増加するでしょう。巨大な都市の数も増加し、そこには1,000万人以上が住むようになるでしょう。東京はすでにそのようなメガシティです。現在も将来も東京は課題に直面していますが、同時にチャンスにも恵まれています。今後さらに多くのメガシティで共存していくためには、すべての人々に食料とエネルギーを供給できるよう、資源の使い方を変えなければなりません。さらに、メガシティにはより多くの緑地が必要で、私たちは気候保護に取り組む必要があります。また、住宅、教育、交通システムも見直す必要もあります。

**その人物が2040年のメガシティ・東京に住んでいることを想像してみてください。スペースが限られたこの巨大都市で、彼らの家はどのような姿をしているのでしょうか？友人たちとはどのような場所で会うのでしょうか？未来の東京では、どんな場所が今と違って見えるのでしょうか？**

---

<https://medium.com/badiapp/major-city-living-around-the-globe-in-2040-4c1f713b967>

# 未来の家族



2040年、そこには新しく創造的な家族の形があります。人々は、子ども、大人、高齢者が一緒に暮らす多世代住宅に住むようになります。

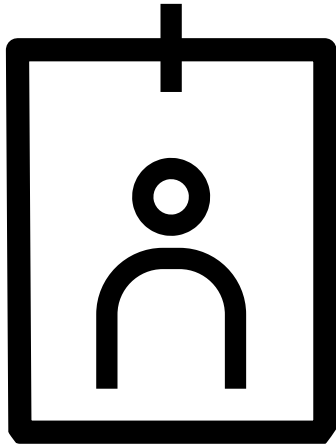
複数の恋愛を同時に結ぶポリアモリーな関係など、新しい形の間人間関係も生まれ、同性カップルが子どもを持つレインボーファミリーも一般的になるでしょう。新しい医学のおかげで、多くの女性がひとりで子どもを産むようになり、親が子どもを産む時期も遅くなっています。

**その人物はどのような家庭に育ち、どのような家族を持っていますか？**

---

<https://transform-magazin.de/wie-sieht-die-familie-der-zukunft-aus/>

# 新しい仕事



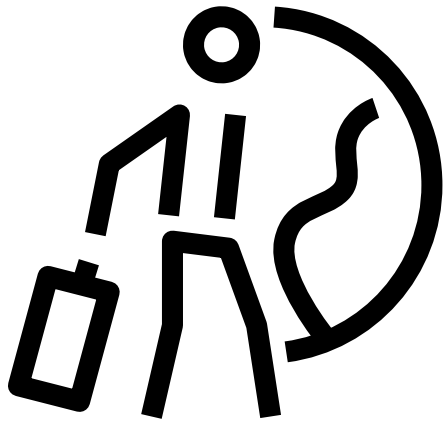
2040年、人々の働き方は変わります。より柔軟になり、デジタルで仕事をするようになります。つまり、一日中働く必要がなくなります。労働時間を調整し、世界中どこからでも働けるようになったり、コンピューターを使って機械を制御したり、人工知能が仕事を助けてくれたりするようになるでしょう。

**その人物の職業は何ですか？どのようなタスクを彼らはしなければならないのでしょうか？彼らの職場はどのような様子か？同僚とはどのような話をするのでしょうか？**

---

<https://www.derstandard.at/story/2000142119803/arbeiten-morgen-was-sich-aendern-muss>

# 移住 - ある国から別の国へ人々が移動するとき



移住とは、さまざまな理由で人々が他国へ移動することを意味します。その理由は例えば、貧困、戦争、気候変動、より良い生活への希望などです。現在、他国へ移住する人は昔ほど多くはないけれど、人々が移住について語る機会は増えています。2040年には多くの人々は移住は経済や社会を助けるため良いことだと考えるでしょう。しかし、人が増えすぎて事態が悪化することを恐れる人もいます。時には意見の相違や対立もあります

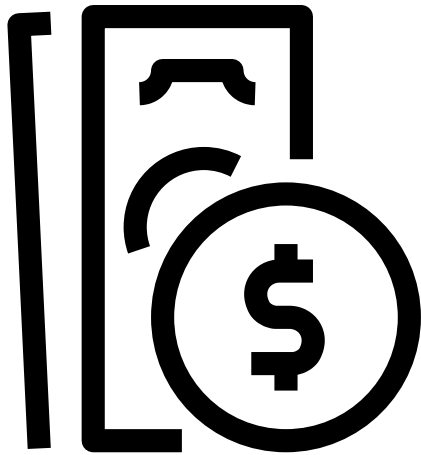
**その人物はどこで生まれ、今どこに住んでいますか。彼らの友人はどこから来たのでしょうか？他の国から来た友人をよりよく理解するためにその人物がしていることは何ですか？**

---

出典 : Megatrends - EC - [https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends\\_en](https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends_en)



# 貧困と富



2040年、貧しい国々では多くの人々がより良い生活を送り、極度の貧困にあえぐことはなくなるでしょう。しかし貧富の差はまだ大きく、男女の機会は必ずしも平等ではありません。学校、医療、技術などの分野で、他の人よりも多くの機会を得ている人もいます。

どうすればこの違いをもっと平等に、物事を公平にできるでしょうか？  
その人物は貧しいですか、それとも豊かですか？彼らの夢をかなえるチャンスとはどのようなものでしょうか？

---

[https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends\\_en](https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends_en)



# 健康

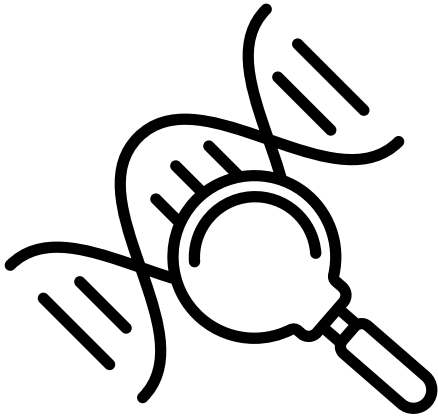
科学は、人々がより健康で長生きすることを助けてきました。しかし多くの方が心臓や呼吸、血糖値に問題を抱えていたり、悲しんだり怖がったりしています。2040年には、ほとんどすべての人が、健康データを常時記録・評価する小型機器を身につけています。体調が悪いと感じれば、誰でもインターネットでアドバイスを受けたり、バーチャルで医師の診察を受けることができます。病院では、介護ロボットが日々の仕事を手伝い、必要な薬をすべて時間通りに正しい量を持ってきてくれます。

**その人物はどのような健康状態ですか？病院に行ったことはありますか？誰かのお見舞いに行ったことがあるのか、それとも自分自身が患者だったのでしょうか？そこでどのような体験をしましたか？**

---

<https://www.zeit.de/zeit-wissen/2023/02/krankenhaus-zukunft-roboter-digitalisierung/komplettansicht>

# バイオテクノロジー



2040年、私たちは医学と科学の分野で大きな進歩を遂げています。例えば、地震を感知するセンサーを足につけたり、記憶力をよくするためにメモリーカードを脳に挿入したりすることで、テクノロジーによって能力を向上させることができるようになった人もいます。病気から身を守るために、生まれる前に遺伝子組み換えをする赤ちゃんもいます。また、肌の細胞を変えて若々しさを維持させたい人や、体の細胞を変えて不老不死になりたい人もいます。

**その人物はどのような新しい能力を持っていますか？その能力を使って、どんな問題を解決できるでしょうか？彼らの新しい能力がもたらす問題は何か？**

---

<https://www.derstandard.at/story/2000139503682/transhumanismus-das-streben-menschen-zu-goettern-zu-machen>

# 気候変動



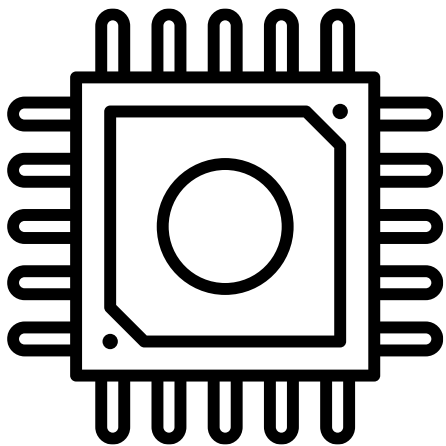
2040年、気候は変化しています。海面が上昇し、干ばつ、洪水、嵐などの異常気象が増加し、日本は全体的に温暖化しています。気候変動は、世界中の野生動植物や人々に影響を及ぼしています。人々は、自分たちのライフスタイルが環境に与える悪影響を減らし、再生可能なエネルギー源の利用、効率的な輸送、持続可能な農業を望んでいます。

**気候変動はその人物の生活にどのような影響を与えていますか？異常気象を経験したり、海面上昇の影響を受けたことがありますか？その人物は、環境保護の重要性について他の人に教えようとするか、それともそのことについて話すのを避けますか？**

---

<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-cycle/>

# テクノロジー



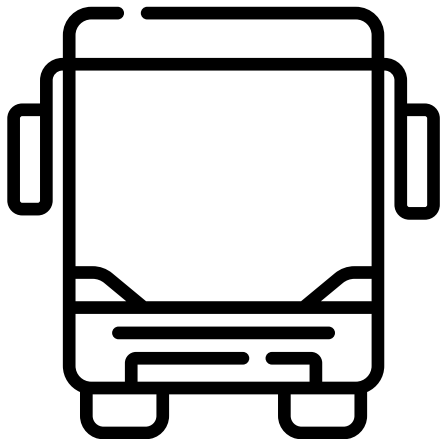
2040年、テクノロジーは学校、職場、家庭など、生活のあらゆる分野に浸透しています。日用品、自動車、医療機器など、インターネットに接続されるモノはますます増えています。バーチャル・リアリティや人工知能も大きな役割を果たしています。これによって、日常生活のいくつかのことがより速くより簡単になり、多くの活動が自動的に実行されるでしょう。しかし一方で、人々の個人情報を確実に保護するために、データ保護も重要な役割を果たしています。

**その人物は、日常生活のどこでテクノロジーや人工知能に遭遇しますか？どのような日常業務が楽になりますか？何が気に入っているのか、何が気に入らないのか。テクノロジーによって、他にどのようなことが可能になればいいと考えていますか？**

---

[https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends\\_en](https://knowledge4policy.ec.europa.eu/foresight/working-megatrends_en)

# モビリティ



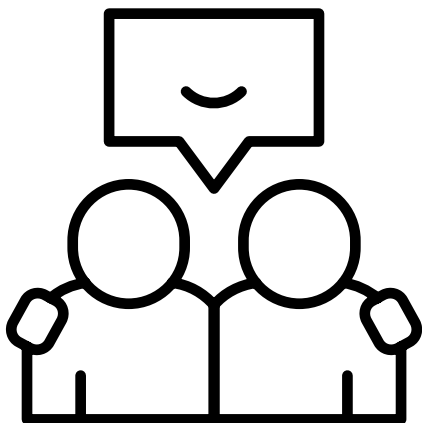
2040年、日本では都市化反対運動により、都市から農村への移住者が増加しています。このムーブメントの人気の高まったのは、政府による開発戦略や地方のイニシアティブが地方での生活の魅力を高めたためです。モビリティの提供、およびモビリティへのアクセスは、地方の魅力を高める上での重要な要素でした。2040年には、滋賀に住む人々は、仕事、公共サービスへのアクセス、レジャーなどのニーズを満たすために移動する手段を与えられているのです。

**その人物は毎日どのように移動していますか？どのような交通手段を使いますか？移動手段へのアクセスはどうか？どんな方法でモビリティへアクセスしますか？**

---

Dilley, L., Gkartzios, M., & Odagiri, T. (2022). Developing counterurbanisation: Making sense of rural mobility and governance in Japan. *Habitat International*, 125, 102595.

# 人口減少

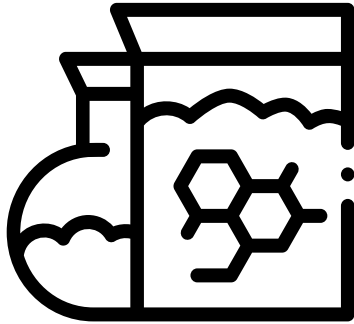


2040年、滋賀は、人口減少、少子高齢化、社会の弱体化によって引き起こされる都市への移住という問題に直面しています。そのため、道路や下水道などの公共施設の維持管理が難しくなっています。政府や自治体は、小学校区など複数の集落が集まる地域に「小さな拠点」を作り、コミュニティバスなどで周辺の集落とつなぐことで、生活圏の維持・再生を図っています。またお祭りやアート、地域のイベントなどで自分達の文化を盛り上げています。市民はサイエンス・プロジェクトに参加し、例えば環境状態をモニタリングして、より良い状況を作り出そうとしています。このように、文化、教育、コミュニティへの関与を融合することで、滋賀は人口が減少する中でも発展し、力強くあり続けることができるのです。

**その人物はどのようなユニークな才能、アイデア、情熱がありますか？  
その人が関わることで、これらの地域の取り組みがどのように成功し、  
地域の未来に良い影響を与えられるでしょうか？**

<https://www.mdpi.com/2571-9408/6/12/404>

# 一次産業



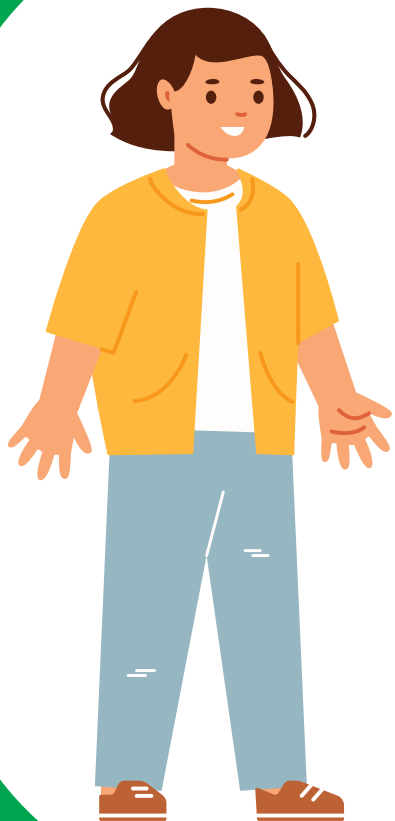
ここ数年、一次産業に携わる人の数は減少しています。課題は専門知識の伝承と事業の継続にあります。しかし、AI、GPS、ドローン、自動化技術などのIT技術の統合により、生産性の向上が期待されています。2040年に向けて、一次産業は大きな変革期を迎えているのです。：

- ・楽しい農業：農家はファームステイや教育的アクティビティといったユニークな体験を提供することで、観光を受け入れている。農家や生産者は、地元の材料を使った化粧品や医薬品など、新しく魅力的な製品を作る。
- ・新規事業支援：起業家志望の人々に、一次産業の多角化に重点を置いた事業立ち上げの支援を行う。
- ・チームワーク：自治体、企業、市民団体は協力し、資源を出し合って地域の一次産業発展のための包括的な計画を立案する。

**その人物は一次産業（農家や漁業など）の方と直接交流がありますか？  
その人物は一次産業の変化にどのような影響を受けていますか？**

[https://www.boj.or.jp/finsys/c\\_aft/data/aft221221a2.pdf](https://www.boj.or.jp/finsys/c_aft/data/aft221221a2.pdf)





# ユウマ、7歳、学生

---

男の子でも女の子でもない

---

いつか髪を伸ばしたい

---

自宅で学習している

---

ロボットの家庭教師を持つ

---

想像力豊か

---

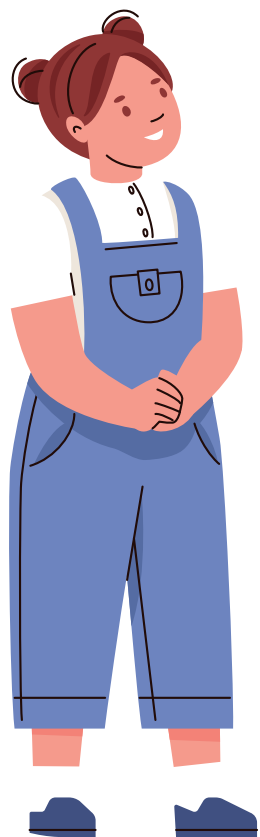
夢見がち

---

恐竜が好き

---

コスチュームを着るのが好き



# シリ、12歳、学生

---

同じクラスの女の子に恋をしている

---

大人になったらどんな仕事をしたいのか、まだわからない

---

内気

---

音楽的

---

面白い

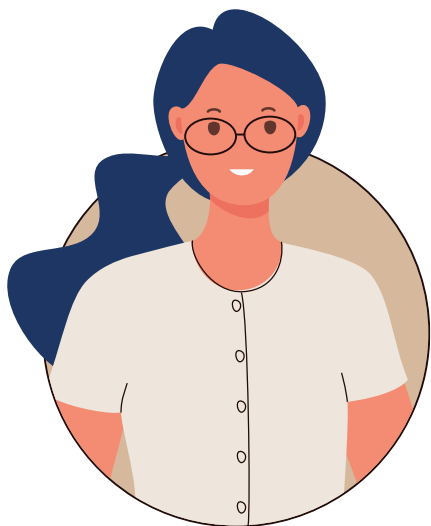
---

動物が好き

---

踊るのが好き

# ミドリ、22歳、大学生



---

目が悪い

---

宇宙生物学を勉強中

---

現在、交換留学中

---

野心家

---

活動家

---

デモに行くのが好き

---

トークショーによく呼ばれる



# ジュリ、33歳、 自転車修理工

---

宗教的

---

現在育休中

---

3児のパパ

---

人と一緒に過ごすのが好き

---

楽観的

---

環境に対する責任感がある

---

自分で野菜を栽培する

---

ホームレスのための炊き出しボランティアをする



# サクラ、40歳、起業家

---

独身

---

子供なし

---

お金に不自由して育った

---

意見がはっきりしている

---

規律正しい

---

实际的

---

カクテルを飲むのが好き

---

過激なスポーツに挑戦するのが好き



# アブドゥル、55歳、 科学者

---

既婚

---

住所不定

---

過去に国外逃亡を余儀なくされたことがある

---

物知り

---

一人旅が好き

---

知的

---

チェスが好き

---

ハイキング好き

# シリン、62歳、 地方議員



---

地元のLGBTQ+コミュニティを積極的に支援

---

子ども2人

---

バツイチだが、新たに恋愛中

---

ノスタルジック

---

慎重

---

節約志向

---

近所のうわさを常に知っている

---

自分の容姿を重要視している



# タクミ、72歳、 引退

---

以前は薬局で働いていた

---

退職者のための共同アパートに住んでいる

---

白髪を明るい色に染めるのが好き

---

スポーティ

---

エネルギーギッシュ

---

スピリチュアル

---

料理が好き

---

お祭りに行くのが好き



# アマヤ、102歳、引退



---

車椅子に乗る

---

以前は新聞社に勤務していた

---

子供5人、孫14人

---

冒険好き

---

認知症

---

社交的

---

世界中を旅行した

---

自分の美術館に美術品を収集している